



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 MRKホールディングス株式会社

コード番号 9980 URL <https://www.mrkholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 真二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営企画部長 (氏名) 中 研悟 TEL 06-7655-5000

四半期報告書提出予定日 2020年2月12日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	13,732	2.8	410	—	546	—	334	—
2019年3月期第3四半期	13,353	26.8	△153	—	△180	—	△482	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 365百万円 (—%) 2019年3月期第3四半期 △549百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	3.30	—
2019年3月期第3四半期	△4.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	17,991	14,381	79.9
2019年3月期	18,431	14,200	77.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 14,381百万円 2019年3月期 14,200百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	—	—	1.00	1.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,100	13.8	513	34.5	396	45.2	208	—	2.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：有
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	101,295,071株	2019年3月期	101,295,071株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	230株	2019年3月期	73株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	101,294,920株	2019年3月期3Q	101,294,999株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(会計上の見積の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、堅調な企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかに拡大しているものの、米中貿易摩擦の長期化による世界経済の減速や、消費税増税により消費者マインドが保守的な傾向となったことで、先行きの不透明感はぬぐえず、引き続き注視が必要な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは中期経営方針『Maruko Avenir Project 2020』を掲げ、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう“美”に関する多彩なサービスを提供する『美の総合総社』の実現に向けて取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間においては、マタニティ及びベビー関連事業にてギフト部門の見直しによる減収や、主力である婦人下着及びその関連事業にて消費税増税の影響が長びく中、売上が伸び悩んだものの、メイクアップコスメやオーソティクスなど新しい商品や、その他においてヘアサロンやブライダルなど、新規商品・サービスが着実に立ち上がり、増収を確保いたしました。

一方で、婦人下着及びその関連事業において販売施策の効率化が図れた他、マタニティ及びベビー関連事業において物流の見直しによる収益改善が進んでいることから増益となり、第3四半期連結累計期間としては、連結決算移行（2015年3月期）後では、営業利益・経常利益共に最高となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高137億32百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益4億10百万円（前年同期は1億53百万円の営業損失）、経常利益5億46百万円（前年同期は1億80百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億34百万円（前年同期は4億82百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となり、増収増益を達成いたしました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

[婦人下着及びその関連事業]

婦人下着及びその関連事業においては、補整下着の販売及びコスメや健康食品などの美に関連する商品の販売が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間におきましては、2019年10月の消費税増税による影響が長引いたものの、新商品の着実な立ち上がりとともに、経費管理の徹底により、営業利益が順調に推移いたしました。

商品展開においては、『Curvaceous（カーヴィシャス）』シリーズの限定色「イアクリーム」及び、スポーツ用レディースインナー『m-fit sports active（エムフィット スポーツアクティブ）』の新色「ネオンピンク」を発売いたしました。さらに、ヘアメイクアップアーティストの“おぐねえ”こと小椋ケンイチさんプロデュースのメイクアップコスメ『GemsBeauty（ジェムスビューティー）』や、高機能オーダーメイドインソールで足を補整し美を追求する「オーソティクス」など、新たな収益の柱となる商品ラインナップを拡充いたしました。

以上の結果、売上高は113億8百万円（前年同期比0.3%減）、セグメント利益は3億99百万円（前年同期は1億27百万円のセグメント損失）となりました。

[マタニティ及びベビー関連事業]

マタニティ及びベビー関連事業においては、マタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨の販売が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、ギフト部門においてカタログ発行の中止や、全体的な物流体制の見直しなどによるコスト削減への取組を継続して推進しました。また、主力のマタニティ部門及びベビー部門への経営資源の集中により、収益構造の改革が着実に進みました。

以上の結果、売上高は16億92百万円（前年同期16.6%減）、セグメント利益は31百万円（前年同期は26百万円のセグメント損失）となりました。

〔その他〕

その他においては、MISEL株式会社のヘアサロン、ブライダル及びシェアリングサービスなど、『美の総合総社』実現に向けた新規事業の開発・育成の他、集客支援が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、ヘアサロン関連事業が、直営店『FURUSHO（フルショウ）』及び業務委託型店舗『Embellir（アンベリール）』共に新たな収益の柱として育成が進みました。

また、ブライダル関連事業においては、『赤坂シュビア』及び『アンジェリーナ・スイート』における主力のウェディング他、法人向け宴席の営業強化により、施設稼働率の向上に向けた体制構築を推進し、新たな収益の柱としての育成に取り組みました。

さらに当社グループの中核となる補整下着販売事業との連携強化に取り組みました。

以上の結果、売上高は7億78百万円、セグメント損失は20百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は114億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ21億79百万円減少いたしました。これは主に、売掛金の減少、現金及び預金の減少の結果によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は65億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億40百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加、土地の増加の結果によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は30億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億90百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少の結果によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は5億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ30百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金の減少の結果によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は143億81百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億80百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加の結果によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、2019年5月15日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,359,868	4,077,318
売掛金	5,357,066	4,063,485
商品	2,222,724	2,165,315
原材料及び貯蔵品	394,338	334,646
その他	1,356,048	891,271
貸倒引当金	△91,546	△113,460
流動資産合計	13,598,500	11,418,575
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,108,519	1,820,916
土地	830,724	1,404,288
その他(純額)	320,846	432,855
有形固定資産合計	2,260,089	3,658,060
無形固定資産	207,895	510,524
投資その他の資産		
投資有価証券	962,462	872,462
その他	1,402,423	1,531,965
投資その他の資産合計	2,364,885	2,404,427
固定資産合計	4,832,870	6,573,013
資産合計	18,431,371	17,991,589

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,356,824	851,366
未払法人税等	244,946	144,092
賞与引当金	151,800	47,130
返品調整引当金	11,000	8,000
ポイント引当金	98,200	165,000
株主優待引当金	181,285	99,928
資産除去債務	3,698	16,162
その他	1,621,996	1,747,698
流動負債合計	3,669,751	3,079,377
固定負債		
長期借入金	6,011	2,608
退職給付に係る負債	7,609	7,175
資産除去債務	339,380	341,764
その他	208,193	179,557
固定負債合計	561,195	531,106
負債合計	4,230,946	3,610,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491,360	6,491,360
資本剰余金	6,473,978	6,473,978
利益剰余金	1,328,038	1,477,350
自己株式	△23	△53
株主資本合計	14,293,353	14,442,636
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,407	7,056
退職給付に係る調整累計額	△99,337	△68,587
その他の包括利益累計額合計	△92,929	△61,530
純資産合計	14,200,424	14,381,105
負債純資産合計	18,431,371	17,991,589

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	13,353,644	13,732,243
売上原価	3,703,342	3,378,104
売上総利益	9,650,301	10,354,139
返品調整引当金戻入額	13,000	11,000
返品調整引当金繰入額	9,000	8,000
差引売上総利益	9,654,301	10,357,139
販売費及び一般管理費	9,807,500	9,946,527
営業利益又は営業損失(△)	△153,199	410,611
営業外収益		
受取利息	2,726	39
受取配当金	16,012	—
受取手数料	71,284	125,745
その他	58,908	15,216
営業外収益合計	148,931	141,000
営業外費用		
支払利息	3,363	136
為替差損	1,303	1,925
株主優待費用	35,709	—
株主優待引当金繰入額	132,934	—
賃貸費用	112	1,502
その他	2,402	1,765
営業外費用合計	175,826	5,330
経常利益又は経常損失(△)	△180,093	546,281
特別利益		
その他	79	—
特別利益合計	79	—
特別損失		
固定資産売却損	—	247
固定資産除却損	5,454	3,012
減損損失	2,502	3,171
その他	2,747	2,961
特別損失合計	10,704	9,393
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△190,718	536,888
法人税、住民税及び事業税	125,475	92,867
過年度法人税等	84,497	—
法人税等調整額	82,060	109,458
法人税等合計	292,034	202,325
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△482,752	334,563
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△482,752	334,563

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△482,752	334,563
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△124	648
退職給付に係る調整額	△67,064	30,749
その他の包括利益合計	△67,188	31,398
四半期包括利益	△549,941	365,961
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△549,941	365,961
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間において、非連結子会社であったMISEL株式会社の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(会計上の見積りの変更)

当社の連結子会社であるマルコ株式会社は従来、たな卸資産の評価基準について、取得から一定の期間を超える場合には定期的に一定の率に基づき帳簿価額を切り下げた価額をもって連結貸借対照表価額としていましたが、物流改革・在庫一元化に伴う在庫管理体制の強化により、単品ごとの網羅的なデータ収集および分析が可能になった結果、第1四半期連結会計期間から、たな卸資産の公正な評価額をより適切に反映させるために、在庫期間に応じて段階的に帳簿価額を切り下げる方法に変更することといたしました。

この結果、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間の売上原価が79,796千円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益が同額増加しております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

前連結会計年度まで売上原価として処理していた、当社の連結子会社であるマルコ株式会社の一部の店舗人件費などについて、第1四半期連結会計期間から販売費及び一般管理費として処理する方法に変更しております。

当社は前連結会計年度にホールディングカンパニー制へと移行し、補整下着の販売のみにとどまらず、美容コスメ、サプリメントなどの健康食品、あるいはマタニティウェア・ベビー用品も提供するなど取扱商品を増やしており、店舗従業員の役割も多様化してきております。このような状況をより適切に反映させるため、第1四半期連結会計期間から表示方法を変更しております。なお、この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、売上原価に表示していた3,179,400千円を販売費及び一般管理費に組替えております。

また、前連結会計年度において、区分掲記しておりました「流動資産」の「商品及び製品」は、第1四半期連結会計期間から上記見通しを踏まえ事業内容をより明瞭に表示するため「商品」に変更しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結貸借対照表において表示していた「商品及び製品」は、「商品」として組替えております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	11,338,900	2,014,744	13,353,644	—	13,353,644	—	13,353,644
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	13,424	13,424	—	13,424	△13,424	—
計	11,338,900	2,028,168	13,367,069	—	13,367,069	△13,424	13,353,644
セグメント 損失(△)	△127,076	△26,122	△153,199	—	△153,199	—	△153,199

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	11,308,547	1,660,666	12,969,213	763,029	13,732,243	—	13,732,243
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	300	31,575	31,875	15,004	46,879	△46,879	—
計	11,308,847	1,692,242	13,001,089	778,033	13,779,123	△46,879	13,732,243
セグメント利益 又は損失(△)	399,927	31,885	431,813	△20,889	410,923	△312	410,611

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、集客支援、シェアリングサービス、ブライダル及びヘアサロン等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△312千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計上の見積りの変更)に記載の通り、当社の連結子会社であるマルコ株式会社は、たな卸資産の評価基準について、在庫期間に応じて段階的に帳簿価額を切り下げる方法に変更しております。

これにより、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が「婦人下着及びその関連事業」で79,796千円増加しております。